近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

（1）　このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。

（2）　このデジタルアーカイブの利用に際しては「東京大学経済学図書館電子資料利用規則」に同意したものとみなされます。

（3）　印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。

（4）　画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。

（5）　画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。

（6）　文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。

（7）　本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。

（8）　本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

北勢騒動毎日録

清兄所書之

經濟學部研究室
5
1679

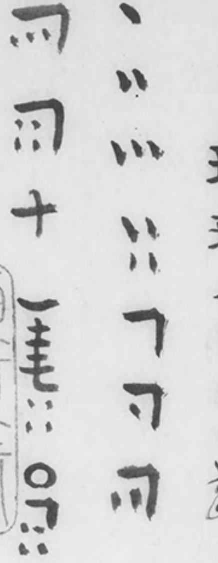
東大
11

東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

朱書

經濟學部研究室
5
1679

○琉球八重山の数字



東京大學圖書之印

41640

北斗騐勸算錄序

大凡物不得其平則鳴、草木無聲、風
撓之鳴也、為聲者、其皆有弗其平者
乎、竊惟八重山之村、騐勸之謄鶴者、周易益
卦、象損上益下民説無疆其道大光云云、
及之謂歟、不可論也、然此記録識者鏤梓、
賴多於南畝農吏、實諸好士玩弄也、今
也、此書録北名吏者、不失一也、為後學實
録者也、仍述槩題其首、皇和明和五年
戊子九月二十一日　山人写序、

重山領ハ八十六村ヨリ元ハ八十一村數亦因ヨリ耕カ者
九九ノ記今ハ八十三村何故欄三村於テ未考

東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

読者乞再論

北勢八十ヶ村騒動実録仮名序

蕭々馬鳴、悠々旆旌と、畏ミ畏ミ(?)、馳々たる馬盧
の野に雲霞のことく、人歩集りて、牛馬首を回
傳ふ也、百七十二年以前、天正十二年四月峯(?)城
主（今の桑名領 伊勢の川(?)）佐久間甚九郎籠城の時、羽柴秀
吉公旗下、蒲生飛騨守賦秀（後氏郷）
攻撃しより、今日まで(?)鯨波の鳴るも皆傳へけり(?)
ハ候、甲鎧ハ商人の律令に流る代より男子(?)
の外、太刀は音庫(?)、鐸々、鏁(?)々、鎌(?)々、焼(?)
鎗入竹鑓よこたへたる百姓、其他に触集る

古戦場、其昔よりえ帰るとも、其昔の名(?)を好(?)しく。
其のなす此の事、言書(?)集めいて始、此の代に其(?)満ちに
説の海の深き事、種々を其の知る人とたえし、未志(?)
ほとりの書、流れづき品も形をあれき、たゞみの海く
の実(?)、論と止る事、形(?)きし、評文(?)の深きハ、長
門前田(?)の例に倣ひそやさき、度々ず口のたる言、
差(?)のもし、あ(?)みふかふらしき人、諸好(?)にあたる
ま(?)る鳥(?)やあたらし、物部山人稿(?)自蔵書序、

○飛騨守蒲生賦秀（氏郷）天正十二年ニ(?)…(?)
改氏郷(?)秀字諱□(?)

勢州亀山領八十三村騒動実録、

一 寺社奉行 石川吟治郎殿、十二万石 在番
　家老 加藤彭右衛門、在江戸 禄六百石
　加藤織部、禄四百石
　佐治直理、〃四百石
　石川伊織、〃五百石

一 江戸留守 高木陽右衛門、在江戸　一宮岩 安右衛門、
　細木退右衛門、

一 大目付 近藤伊右衛門、　馬場彦右衛門、

一 町奉行 町田万兵衛、香山半右衛門、伴安之丞、

一 郡代 大塚六右衛門、生田清之丞、村上八右衛門、
　福田條右衛門、

一 手代官 東村武右衛門、稲垣彦右衛門、小泉利右衛門、
　大延文七、増田勝之丞、鳥山條右衛門、在備中

一 八十三村騒動濫觴ハ、去ル年地頭取より
甲州川浚口ニ付、東南の鍬鋤人江御守
山宮市郷之上ニ而御領下、騒動を御用立
よりも年同宮殿ニ、次ハ又ニ当秋己来村々
水荒川成のに候年又騒しく物入等不
得止事ニ御許の趣と申つし、

一九月八日ゟ御領分何方共なく廻状を以寄集る
十ヶ村程屋飛騨野八十ヶ村寄合申し十ヶ村集り
次之男共ニて打こわし寄合申し村方ニ而
うちも御領分中一統ニ而此様急し寄合ニ不及
鎮守へ持参致し其外人前ニ捺印いたして
事済申候事、

九月八日　御領分中

八十ヶ村頭取達ニ而候

追加一村方役人共ニも寄合致ス共寄々様相寄合
且村々ゟ村役竹本ニ而持参致し候三人
ニ而後悪之共事ニて御領分表ゟ助ケ申し候
以来也、

一拾壱村ニ而寄合取之事ニて申当日寄合之事申、
一拾村ニ而成者気を付集り用意、
一三日ゟ人足を出し入用事相止候、
以上
一九月十三日四ツ時鈴鹿郡磯部飛騨野、中央、天
王山西ニ而不残舞揚申し其外野党当村々ニ
以成割付候、
一其頭ニ和田村辺ゟ中富田まて凡三百人、
伊舟村辺北山家千三百人、竹野辺以来村辺三百田ニ三百人、
山下田国府辺野辺千七百人、河原辺ゟ南山家九百人、
野尻辺の口、水取白木辺　九百人、
一遠藤之辺へ入川島下宿南以来村野村

東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

総合四千六百人、凡百石十人ニ付捻し、壱村七十人ならし、
庄中竹（タケ）法（ボ）螺（ラ）記（ラン）調（チャウ）を吹ならし、筒四五本たゝき
ならし、鯨（トキ）波（ノコヘ）止る事なし、印（カウ）旗（ジルシ）の竹ニ挑灯思ひ〳〵
の印を手ニ八十三村の惣代を人ツヽ八十三人中央ニ控へ
絹を竪ク路ニ安着鶏より頭（シヤリ）ニ時の声をあげ次第
を守る名にしおふ矢（ヤ）部越（オコシ）堤（ツヽミ）ニ而西とみ田村へ押込
なる道の行程壱里路ニ、五千六百人西とみ田村ニ相
到、惣勢を二手ニ分け一手ハ和泉川原ニ屯（タムロ）し者ハ
名や孫四郎方、惣ひまづ手始ニ孫四郎方の水車
何の手もなく打砕き、猶ときをあげ勢ひまさると云
め惣代として壱人ツヽ願書を以、領主へ呼出の
文言、

貴殿方今日八十三村打寄之趣、昨十二日夜、野村
大小惣代、御進達候之、昨十二日、御代官　大辻又七　小泉利右衛門
野村大小惣代、伊藤兵右衛門、名越村小天狗揃、相手と
加之、昨日小天狗揃ニ而人歩七人、御目見ならし
難儀之次第、貴殿方は之様子、常々以之儀候
八十三村多勢、一統難渋ニ付而何卒
如件、

九月十四日　右惣代中

西とみ田村、名主孫四郎殿

右之趣、読聞せ中を、いざ人々と云ふや否、表之戸障子の外ニ者共
大戸を破り、雨戸を砕き、押入、諸道具皆夫々ニ至るまで
微塵ニ打こハし、其上ニ有り物小屋までも壁を

朱書

東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

朱書

ぶち魚を蒸し敷ニて焼物しもする事代主命不知
し侍どもさげ和気の河原、引上する影るとも流るゝ不
名所の所の事を郡代生田満寿高貞侍長瑞豊
文是経而十人相野三千強て松たる事四千たる人
是を見て皆一同に堂々とあげ竹鏡の辞也と流れて
家たる多様に不測と思はれなん何の手もなく鳶山、
門の流れけるあたりなるぞ人歩もなく鯔(トド)鰍(コノシロ)鯵(アジ)揚て往
是道る小田村を撫て路とし村で夜陰けるれば
海に寄る村を己川合村に出し鈍れより擂ニきれ詮
鹿河を行き侍る八野村に着ごとなる家の村にて
侍東も事侍門前にて又例の郡代并人を待たせ
ニ潮十一号の文曰、

貴殿事廿の余ニ而以前能安野村山畑に在り
今般此八野村開発新田事是開発貴殿事に而
屋敷四郎力とも是ニ貴下身ニ而通路ニ出
其何る姉ニ貳拾五不申候官様野侍る、入也
安野田録の羽の村々名前を有る入込に致す七
十三年来文録三ニ年文治様ら郡下弐七人衆、
羽柴正徳守侍雅、神戸　岡本下野守兵庫、
一柳右近大夫直重、　柏木河内守、常陸
新庄東玉齋、　服部采女正、杉坂
稲葉兵庫頭、田丸
右七人衆　何れも御代官、
御検地之節も御宗門改ニ而御判之上は右検地竿を入

東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

御領分永々の難渋迯る二人者等常躍をまし
萬民の難儀を御領下の困窮如く我何条
然を様御本迄に数輩帳右天災如何し、
九月十日
八野村　伊東古兵衛殿
奉ウケタマハル　八十三村中
讀上も終らす一同ふるる迄亦難儀者小屋まで
然る時の内に微塵と成す銭富市亭ちの方に詰けて
に難儀人に掲し指げ打し屋も微塵と成し
なる且車井戸へ白玉七ツ斗と打込むる八野と
山の能成もに我家も様い目もあてられぬ泊る
なうされども多富人一同にうちどきをあげ井底川
魚に打込く息を保ぎふなる、

御届書
時すれも八野之山は飢饉ききし候
又能噛候ぬ徒党者数なる
取る多分富人の家々ぬ井戸底河泉と投て世家の
能書二通八々條より聞する其の文言、
左認曰く
一猪野之甲斐乃役退役　一吉谷や多村退役、
一永荒川成当引、
先規之通御用捨のこと也是非年下候
次の慈悲御下けのこと、
一宇山甲府御用金事務当年貢ふる者次
第なし、
一当年貢事務御年貢御用捨のこと、

朱書
東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

朱書

一古来延十二年之内ニ而御免之御用捨ニ而候哉否の
ならし、
一御年貢米納ニ而御定納ニ而候哉之事、
右七ヶ条ニ而取調差出候筈のこと、
一精郷方右之段委細請取之義ニ付村方ニ而今般
一右等や之義村方ニ而相当取計候義ニ而候
御代官様ゟ御差出ニ付致候て、
御上様御懇意ニ而取扱ニも上納方得者早急ニ致差
ゟ御代官方御座候得共、何卒御取調ニ相付
候ニ付下候ニも候て一統之者ニ而も[illegible]
以上、
子九月
御鋳銭方
村々

亀山 御代官様
乍恐 以上
一西村迄入用 右之方承、御代官役所ニ而も[illegible]
聞届、万一ニ候ハヽ是 御鋳銭方名主一統ニ而文
ヶ而中上ゟ候 以上、
子九月
惣名主
九月晦日 御代官様
右二通八ヶ條八ヶ村ニ續ゟ山道且村方相[illegible]
通り吾妻村ニ惣代ニ而[illegible] 八ヶ村之[illegible]入用
又鮫波揚げ井戸通り新田村[illegible]徒罷
通東萩野、[illegible]亀山[illegible]町入口南側[illegible]
屋町[illegible]入方、迎ひ申し惣代として五人ニ而

東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

書を以て讀候得は一字八字同漢で益を聴

すべき文に曰、

貴殿事四ヶ年以前大坂表中以来

去る方の酒類を商売致候得共呉の女子

万而割より出るゝ者也 仍八ヶ年より家ヲ被

却ニ而候 仍御中移進め候、

丸一日

某古八百人

菜や平八殿

とやまより来りて町の家とはげ大戸を締ニ記す文

殿ニて暁ハ比すぎ 東都御郷の花の木の

花の秋の紅葉にて殿ニ和事や

命より外の小まで候はらたてなれ候人に物見えの

八

右に店人まつりぐらし題帳を以ての代の前に跪き

茶屋町中様候やらの鳥山ニ町なり

生国條々ニ鳥題合 大延又七 小泉利右衛門 仲右衛門 伴安之ニ郡代

内にて備を定め進まする也 安達山西河也 二年宇宮

の餅を勝てすみける其の時の兄の武者高竹鏡

先とむ手の方へ引ハ比すぎる無代出る本知して参

ると押ふて十歩ふるぶ高ある大きく剣しとする

まするを横に指の本村にて也 勝紀右衛門方へ迎右衛門

右之門前にて鯨死を何ともの無代として

右人右衛門の同筆に破も笠様ニ有之懐

中よりも十勝右衛門しの讀候得は文曰、

貴殿事に年延ニ過て夫より退候もこのくはくる

猪野俊方ハ入込山領分村ニ水落田畑ハ竹竿を
入ニ不寄性ニ不尽し已罪八人何ニ年ノ名ニ歟
いろ込宋羅於光緒ニ也又傳ニ冨貴於ニ緒ニ
歟駒天命於今日也在天刑於今時也仍
速ニ破却於家財也八中ニ村御兵ニ執
達ニ如件

子九月廿四日　惣代ニ

みな夫村にや　勝記ニ御ちうとの

と言ゐ[illegible]ニ傷ニ早りていざ人とふや君ニ戸を碎き
戸を碎ニ紀入母之言ニ漬ける折ニ[illegible]
方ニ錯ニ事ニしと見ニ幸花已家ニ漬ニ見
までなてがいちるす天命のいろす[illegible]と柱を引

個とも本家を奥迄掾ニ引たおすをも出ニ於
小屋までも微塵ニ於は敗しさある皆目ニ傷ニ
きをはげ西の方草野ニ引[illegible]ニ紀ニ山ニ屋
宿ニ称や宗ニ情酒や十[illegible]方ハ[illegible]出し三年表
中な[illegible]ハ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]し[illegible]西
鯨や海ニ情ニ酒ニ精ニ込ニ[illegible]代[illegible]中[illegible]ニ命
よろ[illegible]西村[illegible]何是の酒を[illegible]と
大将ニ[illegible]ニ[illegible]ニ精の酒微塵と[illegible]し[illegible]ニ京
の精の肥しとは[illegible]しゃる鳴[illegible]印
酒[illegible]傷ニ美酒[illegible]ニ[illegible]酒ニつて菊見
ニ国[illegible]たしと[illegible]しなる[illegible]ニ大目[illegible]ニ[illegible]
[illegible]ニ[illegible]の文言[illegible]、

御鎗弐る駕中何ニても御取ニ而助あるへく候
警固両人御用ニ付而ハ遠国ニ而ニても差出し
候、

かしこまり申

八十三才ノ駕中

大目付衆

此の書状差出候ても使者して通達之と此経文殿山
鯨也方角也方、碑ニの日本書日の内之佳
是迄のさまけふとも普請日脇ニ西山ニかわらぬき
気なる口の諸者往還時分はよしと御用記録
此始らし付と誰か者之ニ押之東林野、拗る
江戸口見附御門ニ到る、 いまるとかり侍

十

一 江戸口御門ニハ高張挑灯、足軽百人ニ而固メ、
（町奉行 伴 高安）
大手口外高張挑灯、物頭二人、大目付二人、
（近藤伊右衛門 長谷川 文）
郡代出向候ニ付、
足軽百人、
御代官二人、
（大西又七 小泉利兵衛）
長町口外 物頭二人、足軽百人、
和歌山口外 大目付、
本坂御門外 大目付、
徒士目付、前川

内堀
御本丸 御目見中 物頭中ニ而、家中不残
○大手口内 ○本丸口内
足軽百人

其外御家中小役人とも二三十人余り申刻ニ至り候、
斯くて夫より前ニ至る時ハ夫同様懐中より取出し御餞別として
節ニ致し候ニ此の儀ハ御用ニ付よろしく頼ミ候と計り合
申し候、右東町奉行所ニ而も十分ニ馳走、魚も伊勢や、魚
や浪花屋、山形や何れも酒を出し申し候、其外小
旦那とし方ハ申候し　提灯・炭・付薪、其外菓子、
饅頭抔何方より参り候而も程能入用次第遣し申
立しと申者も有之候、ほかにも有之候得共、まずは鮫や
隠居も参り、御礼も参り候、青竹にて閉門の節之、
是も指図ニ而、戸を破り門ニ入候内
繕ひ壊候事も有之由、例の又ミなみ書、
貴殿事今日御蔵米買ひ被　仰付候ニ付御領分中雑

●

儀是迄上候所御蔵米西ノ日掛ケ候処申ニ濱手ば
させ申し、且貴殿ニ者覚悟として伊勢屋米三千
表買入、張を出し御特々持方ニ差し出し候
右同様町奉行濱辺にて取計被下候様、是又言上候而
之加之門ニ而勤にて御新田、且来田ニ而ハ何不少
依之今日御領下一統ニ而承候而も破壊家
殊数拾軒ニ至り、是者天災ニ而候
右之段申上候　年　月日　何某人
西村源五郎殿
如斯積置之一国ニ騒立候の事ニ候を上ニ而ハ別而
此度打壊之人数、又人数、是又被召捕候
一、此西町奉行所組与力にて五十人ハ同様雑具

朱書
東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

の山に擬する綾羅官錦ハ足下に行纏注連物刀剣も
筑紫山の石に砕かれ魚類の鼻に、中に件理、行成
道風にの筆跡、名画奇妙の達人、都て是等も
知られて實の名に隠、平生の愛慕も、雅人の
手に持て、唯く我我、七中に生の倖履も凡下の足
下に踏みだかれ、春の旦に花に戯し、童も今
夕の風に散りて、秋の月都ハ自みたる紅の小袖も
行かれまみて東山鏡の薄ふかくれぬ、今日何をとかと
て有るとたの世、色々、と見ゆるの遺俗淡なから
見物す、既に雨の到るといふ春の期過、甲に行らぬ
国宝に星をいたゝきて、嗚呼で壊ちたる、往
昔慈仁の前乱に室町殿家の宝物、灰燼

空なりしも、宮古にとゝまれ知らしめ得たる、傳ハれるも
千万る人一回に行どきを今に、まるるの白き白きや
ら酒に千石に及ぶ、浮きに思を休する、此の時節
まるる扇や忠に表貴、白衣、ちりや常に濡れし例
のそなれ、
貴殿事ちる屋中吹宮にて身上に身よ申
とる何に名中に深く不審の何る事る将た
きあしゆへし不早速背諾に無神妙き
依て罪一等を除し命ハ汁壊者也、本
家に義郷ある[illegible]あるよ哉よ为あるる人も
執達如件、
かく[illegible]
扇や宗音[illegible]

朱書

如此讀ミ認させ候ニ付、如何之儀ニ候ハヽ難相立候

係り合之儀申候得者我等も難引請候旨申候

申候得者何ゟも存寄無之旨何の事もなく命も不計

懐(つぶ)ち申候ニ付時節柄其の、

「扇子やがて安の命ハ破られて

地獄計りで骨はなかろ」

一 四ツ半時過安部因州邸ニ出候事、

一 暮れバ十時過安部因幡守殿ゟ、嫌疑ニ付不従

目付前川藤十郎、志村某、二人之目付之人

同道ニ而安部因州邸ニ参り連行候得ハ以下略

文情之通ニ有之人ニ係合之段申立文言、

其後[illegible]ニ候得共[illegible]ニ参り候

守、続て私共も罷出候、安田家老共同道ニ而

一乃ち申候て、家来共以書面申聞候之、

九時過ゟ 寺社奉行 進邸鐙

出候而大目付其外御役人も御門番衆ニ而被相渡之

人計無之而御用も可有之候共之人数有之

候処被申候而御留守中人数之儀有之追々[illegible]中

家来之様同断ニ付[illegible] 備人ニ而[illegible]

右川伴頭[illegible]出役之処大目付二人、其外之人、

郡代并代官組頭十二人、足軽之者人共備之候

其上申出候由ニ而大目付相之者共上下ニ而[illegible]

其の申之上ニ而代官申之[illegible]之迄

し事之申候て目付之[illegible]呼ニ而参りて

東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

今日も藤泉丹右衛門唯と壹文差上文早速川泉彦
より参る伊奈文差上文兩人郷書二通ヲ差出八十之村
より來人ゝ八十三人御代官所え備人持参帰郷
書面通、當日ハ於彼所昨日晝八ッ時頃ヨリ出張之由在門伊奈殿家来
宮ノ下御出張之文郷書之写差上候由、此御書文九ツ時
偲人被ニ御出大目付御役、兵庫頭ゟ郷書之趣被仰付候
組ゝ江戸へ申越候通之通江戸へ申上候一書面大く
屋ニ而御屋退役ハ宿中江申上候中御請申上候文
之大目付衆八十三人之者共、兵庫頭郷書差出
之写被下候しよし、
郷書二通之写ハ御家来中ハ宿ニ御渡被下候
帰郷之上ニ而御達被成候也、

九月大
大目付衆へ御届
在文之此度川泉ニ持参候段文持ニ御代官ゟ被申上候
印鑑有之是ニハ漏候者ゟ申越候旨右之通人江戸
御返答之義ハ来ル右日ニて右門ヶ所差添候御
泉ハ備置一方ニ一方ニ御頭御用ニ付 廣藤師
ハ便之八方米穀水之記被成候ニ付
けれ共米穀ハ持参之者ニ而 壇譽ハ差出、御留守之
中々御、廣右衛門御用の国本を伐り家を立つら
いつの中へ参り廣を御くの山ニ申して七ッ時川
泉を立、参る六ッ時廣を発、帰宿申しそろ
今日より天気能候夕四ッ時より大雨雷鳴

朱書

係不顧急速夜中御注進来致し、
一十六日雨、如何ニ存候ハ、兵粮沢山ニ付酒五
樽廣兵衛ゟ遣し、送る今日御請取、助合ハ四斗一樽ツヽ、
一同日七ツ時大目付衆二人（伊丹雅楽・廣瀬兵庫）廣瀬錦八、右ハ
何分数多番所ゟ申参り候御申し候、相済引取申し候
右申ニ付其ゟ先見、大代官入り隠ス船一ツニて
叶申さ重ゟハ大兵御徒目付中ゟ申請取し
益々六ツ時出帆ニ而海中へ、
四ツの海八島の島もおさまりて
ふたゝひ帰る君の御影

一十六日大代官（右出立七ツ、小筒鉄炮足軽）方ニて右代官、小代官、
右之者名前申上候、
加納村 伊丹多右衛門、 大久保 大久保彦三郎、
兵粮 加納勘蔵、 同 市川兵右衛門、
国奉 新田次右衛門、 同上 新田次郎、
賄方 新田権四郎、 大久保彦右衛門、
伊丹傳吉助、 右代官
二ノ代目付
加判 伊丹大右衛門、 伊丹傳兵衛、
しき役
西川鍬平、西村傳之丞、 西ヶ谷 傳四郎、
右之通名前申上候、

東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

・九月十三夜廣瀬野にてよめる、

柁貞

かゝる雲やは廣瀬野の野辺に宿さへ
花すゝき秋の旅寝せんとは

廣き野に露を待[illegible]萩原[illegible]
[illegible]ひとまつまつあのつきのかね

經濟學部研究室印

朱書

東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

鶴山の鶴の巣籠

但馬出石町に俗に鶴山と呼ぶ勝地あり例年この山の麓の老松に鶴が巣を作るゆゑ名高し本年も四羽の雛鶴孵化し小さき羽を擴げて戯るるさまいかにも愛らしく日々何處よりか七八羽多きは十數羽の鶴飛び來りて空に舞ひ或は梢

にとまるなど面白き圖なり、新緑滴るばかりの山を背後に控へ北方は田野遠くつゞきて出石川の清流を繞り出石の市街を隔て、古城山を眺むる景色好ければ遊覧者引きも切らず同所は播但線豐岡驛より三里、道路平坦にて馬車、人力車の便ありと

●千鳥草の御賞美

皇后陛下の御座所間近く備へ參らせたる盆栽の内檜垣禰宜の珍藏せる千鳥草と云ふゆかりの色美はしき草花あり一莖二葉花の形千鳥の飛ぶに似たり陛下は不圖之に御目を止めさせられ美はしき花よと御賞美ありて持ち歸るやうにとの御沙汰あり香川皇后宮大夫直に縣廳に旨を通じ縣よりは更に神宮司廳へ囑託したり千鳥草は君が代、岩櫻、村千鳥、岩千鳥、千鳥蘭、一葉草等の異名あり神都の名花にして内宮の奥約そ三十町朝熊山の麓なる産が瀧の岩清水の邊に生ずるが近年悉く採取して今は稀になりぬ、人々仰せを畏みて捜し求め神宮の小物頭河村正三郎の愛藏せる一鉢と他にて得たる一鉢とを御前に獻りたるに御滿足に御思召したりとぞ（山田電報）

青木信一先生編
實用園藝
園藝は獨り新らしき野菜、麗はしき果物を
として一種上品なる娯樂の方法たり、運動
ある有益のものなり、本書はこの有益な
的に蔬菜栽培、西洋花栽培、果樹栽培
の圖譜を挿みて親切に說明を施し、漢字に
したれば、この道の初心者には唯一の指
諸君本書によりて趣味の向上を計らるゝ

發行所
大阪市東區博勞町心齋橋
東京市日本橋區通一丁目

第三回內國勸業博覽會に於て
大賞牌受領

『學生』一週年紀念
讀め
學生
少年
世界

●朝鮮行
城津丸 廿三日 長崎發朝鮮各港經由大連行
基隆丸 廿四日 大阪發正午 門司仁川鎭南浦
編州丸 廿八日 神戸發前十時 浦安東縣行
信濃川丸 廿四日 大阪發前九時 下關釜山木浦
群山丸 廿七日 神戸發後一時 群山仁川行
京城平壤行通シ荷客取扱申候●信濃川丸ハ馬山寄港

●天津行
油頭丸 廿九日 阪神發 門司釜山元山西湖津城津清津行
白河ヲ溯リ天津紫竹林埠頭ニ繫留致候
大信丸 三日 大阪發正午 門司發
大智丸 廿六日 神戸發前十時 翌々後五時

●浦鹽行
鳳山丸 廿六日(每金曜日)後五時敦賀發
交通丸 五日 小樽發 浦鹽行
日曜日浦汐發歐洲行急行裏寨列車ニ連絡シ通切符發賣

●樺太行
大禮丸 一日十一日 小樽發 大泊眞岡及西岸
及廿一日 前十時 各港行
筑後川丸 廿五日函館發 小樽大泊及東海岸行

●南清定期船
打狗廈門東間 二週一回 (廈門汕頭香港寄港)
打狗上海間 每月二回 (基隆福州寄港)
淡水香港間 每週一回 (廈門汕頭寄港)

朱書

東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220

・経済
5
79

東京大学経済学図書館所蔵 5-Z分類古文書 5507680220